

【 2025年3月期 第3四半期 決算のポイント 】



- ◆ 日本郵政グループ連結決算の概要について、「決算説明資料__2025年3月期第3四半期」によりご説明します。



1.

連結業績

◆ 連結業績は、日本郵政グループ連結決算としての業績を記載しています。

- ・ 経常収益は8兆3,259億円、前年同期比1,066億円の減収
- ・ 経常利益は7,025億円、前年同期比1,822億円の増益
- ・ 親会社株主に帰属する四半期純利益は2,649億円、前年同期比430億円の増益

■ 2025年3月期 第3四半期（累計）経営成績及び2025年3月期 通期業績予想 (億円)

	2024/3期 第3四半期	2025/3期 第3四半期	前年同期比	通期業績予想 2025/3/31	進捗率
経常収益	84,326	83,259	△ 1,066 (△ 1.3%)	112,800	73.8%
経常利益	5,203	7,025	+ 1,822 (+ 35.0%)	7,600	92.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (注1)	2,219	2,649	+ 430 (+ 19.4%)	2,800	94.6%
非支配株主持分を含む 四半期純利益 (注2)	3,537	4,312	+ 774 (+ 21.9%)		

(注1) 次ページ以降の「四半期純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」。

(注2) 当社の中期経営計画「JP ビジョン2025+」の目標数値である、連結当期純利益に相当する利益。

- ◆ 太い線で囲んだ箇所が、2025年3月期第3四半期(累計)のグループ連結の数値です。
- ◆ グループ連結では、経常収益が1,066億円減少の8兆3,259億円、経常利益が1,822億円増加の7,025億円となりました。四半期純利益も430億円増加の2,649億円となり、減収増益の決算となりました。
- ◆ 四半期純利益増加の主な要因は、金融2社の増益及びAflac Incorporatedに係る持分法投資利益の計上です。

- ・ 四半期純損益は日本郵便は△25億円、ゆうちょ銀行は3,083億円、かんぽ生命は844億円
- ・ 日本郵便は増収減益、ゆうちょ銀行とかんぽ生命は減収増益

■ 2025年3月期 第3四半期（累計）経営成績 (億円)

	日本郵便	ゆうちょ銀行	かんぽ生命
経常収益	25,980	19,102	43,346
前年同期比	+ 992 (+ 4.0%)	△ 239 (△ 1.2%)	△ 2,261 (△ 5.0%)
経常利益	29	4,412	2,227
前年同期比	△ 209 (△ 87.8%)	+ 741 (+ 20.2%)	+ 973 (+ 77.6%)
四半期純損益	△ 25	3,083	844
前年同期比	△ 273 (-)	+ 450 (+ 17.0%)	+ 192 (+ 29.6%)

■ 2025年3月期 通期業績予想（※2024年11月修正後） (億円)

	日本郵便	ゆうちょ銀行※	かんぽ生命※
経常利益	△ 20	5,750	2,200
(3Q進捗率)	(-)	(76.7%)	(101.3%)
当期純利益	△ 160	4,000	1,200
(3Q進捗率)	(-)	(77.0%)	(70.4%)

注：各社の数値は、各社を親会社とする連結決算ベース。また、「四半期純損益」「当期純利益」は、「親会社株主に帰属する四半期純損益」及び「親会社株主に帰属する当期純利益」の数値。

- ◆ 2ページは、連結業績サマリー（主要子会社）について記載しています。
- ◆ 日本郵便は、経常収益は増収となったものの、郵便局窓口事業が減益となったこと等により、経常利益、四半期純損益ともに減益となりました。
- ◆ ゆうちょ銀行は、資金利益の増加を主因に、経常利益、四半期純利益ともに増益となりました。
- ◆ かんぽ生命は、基礎利益は減少しましたが、臨時損益の改善およびキャピタル損益の大幅な改善により、経常利益、四半期純利益ともに増益となりました。
- ◆ 下段の記載は通期業績予想に対する進捗率です。
- ◆ グループ各社での進捗率は、経常利益でゆうちょ銀行が76.7%、かんぽ生命が101.3%、当期純利益で、ゆうちょ銀行が77.0%、かんぽ生命が70.4%となりました。（日本郵便は損失のため記載なし）
- ◆ ゆうちょ銀行及びかんぽ生命は2024年11月に、それぞれ通期業績予想を修正しており、こちらの記載は修正後の通期業績予想に対する進捗率となっています。

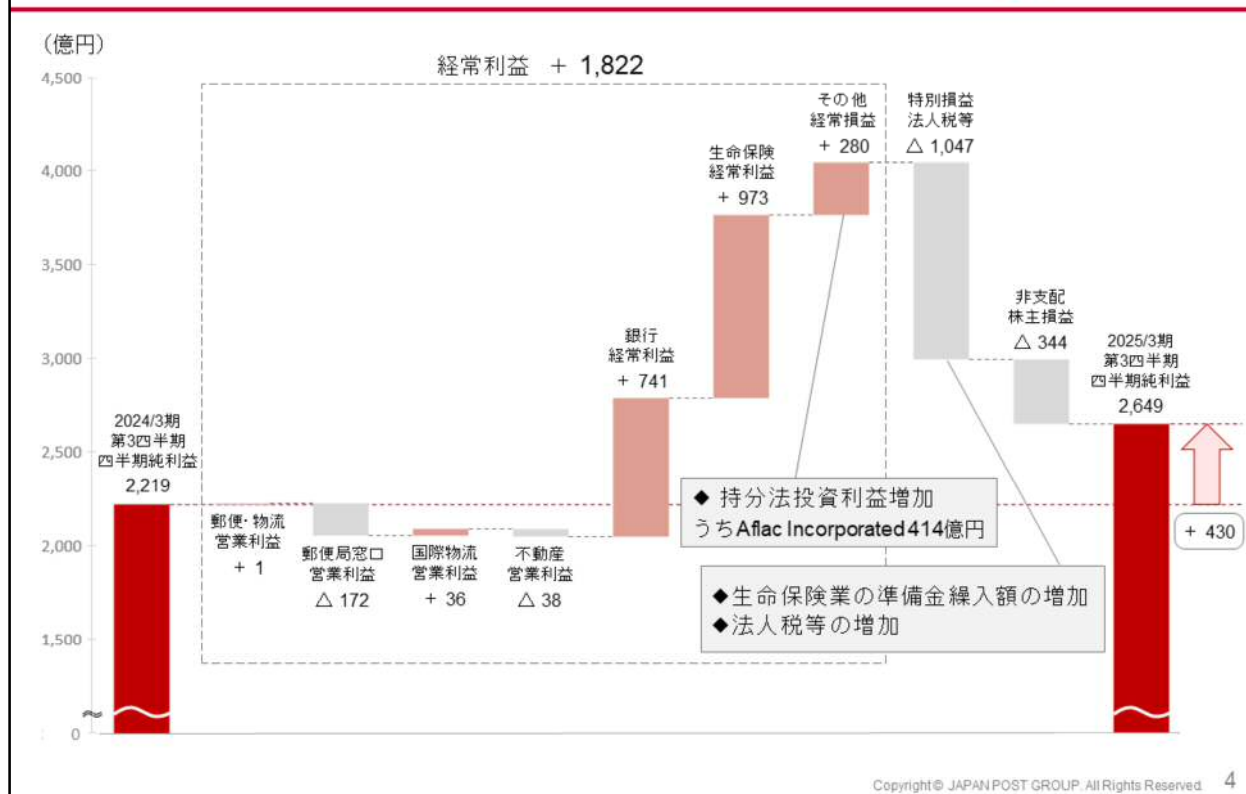
セグメント別業績（累計）

（億円）

		2024/3期 第3四半期	2025/3期 第3四半期	前年同期比
郵便・物流事業セグメント	営業収益	14,825	15,477	+ 651
	営業損益	△ 379	△ 378	+ 1
郵便局窓口事業セグメント	営業収益	7,778	7,660	△ 118
	営業利益	471	299	△ 172
国際物流事業セグメント	営業収益	3,333	3,960	+ 627
	営業損益（EBIT）	54	91	+ 36
不動産事業セグメント	営業収益	733	634	△ 98
	営業利益	165	127	△ 38
銀行業セグメント （ゆうちょ銀行）	経常収益	19,341	19,102	△ 239
	経常利益	3,670	4,412	+ 741
生命保険業セグメント （かんぽ生命）	経常収益	45,607	43,346	△ 2,261
	経常利益	1,254	2,227	+ 973

注：国際物流事業セグメントはEBIT、銀行業セグメント・生命保険業セグメントは経常損益、その他は営業損益を記載。

- ◆ 3ページは、セグメント別業績について記載しています。
- ◆ 郵便・物流事業セグメントは、営業収益が651億円増加の1兆5,477億円、営業損益が1億円増加の378億円の営業損失となりました。
- ◆ 郵便局窓口事業セグメントは、営業収益が118億円減少の7,660億円、営業利益が172億円減少の299億円となりました。
- ◆ 国際物流事業セグメントは、営業収益が627億円増加の3,960億円、営業損益（EBIT）が36億円増加の91億円となりました。
- ◆ 不動産事業セグメントは、営業収益が98億円減少の634億円、営業利益が38億円減少の127億円となりました。
- ◆ 銀行業セグメント（ゆうちょ銀行）は、経常収益が239億円減少の1兆9,102億円、経常利益が741億円増加の4,412億円となりました。
- ◆ 生命保険業セグメント（かんぽ生命）は、経常収益が2,261億円減少の4兆3,346億円、経常利益が973億円増加の2,227億円となりました。



- ◆ 4ページは、日本郵政グループ 四半期純利益の増減要因について記載しています。
- ◆ 滝グラフは、四半期純利益の前年同期からの増減分析です。
- ◆ 右から4番目のその他経常損益は、Aflac Incorporatedに係る持分法投資利益414億円の計上により、前年同期比280億円増加しております。
- ◆ 右から3番目の特別損益は、かんぽ生命において価格変動準備金を前年同期よりも多く繰り入れたこと等により、前年同期比1,047億円減少しております。
- ◆ これらの結果、四半期純利益は、前年同期比430億円増加し、2,649億円となりました。

➤ Aflac Incorporated にかかる持分法投資利益

2025年3月期から Aflac Incorporated にかかる持分法投資利益を認識しています。

		2025/3月期			
		4～6月	7～9月	10～12月	累計
持分法投資利益	億円	228	224	△ 38	414
アフラック当期純利益	百万USD	1,879	1,755	△ 93	—
持分比率	%	9.04	9.17	9.32	—
為替レート	円	148.61	155.88	149.38	—

➤ 自己株式の取得状況(2024年12月31日現在)

2024年5月15日開催の取締役会において、株主還元の充実及び資本効率の向上を目的とした自己株式の取得を行うことを決議し、5月16日から実施しています。

《概要》	
・取得期間	：2024年5月16日 ～2025年3月31日
・取得株式総数(上限)	：320百万株
・取得価額総額(上限)	：3,500億円



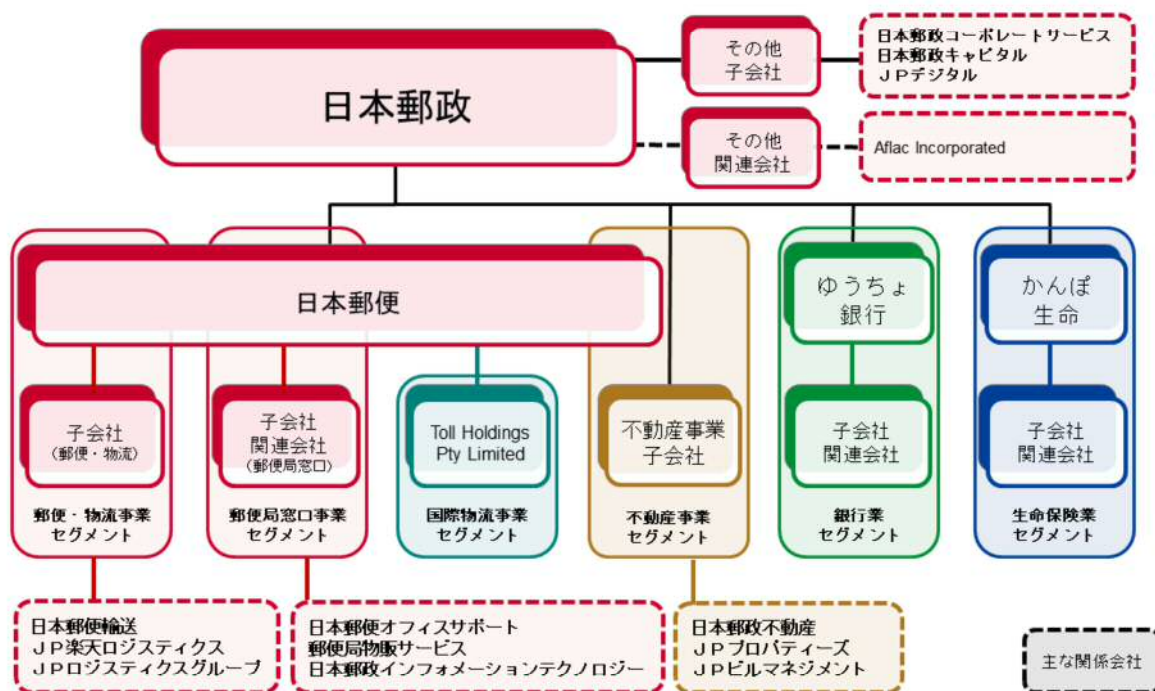
◆ 5ページは、連結業績の参考情報について記載しています。

◆ Aflac Incorporated に係る持分法投資利益及び日本郵政(株)における自己株式の取得状況について、記載しております。

2.

セグメント別の状況

◆ セグメント別の状況は、事業セグメント別の業績を記載しています。



- ◆ 6ページは、グループ概要図を記載しています。
 なお、2025年3月期から、日本郵便と、日本郵政不動産等における不動産事業をグループ横断的に統括して一体的に事業を推進し業績管理を行うため、報告セグメントの区分を見直し、「不動産事業」セグメントを独立させました。

郵便・物流事業セグメント（日本郵便（連結））決算の概要 日本郵政グループ

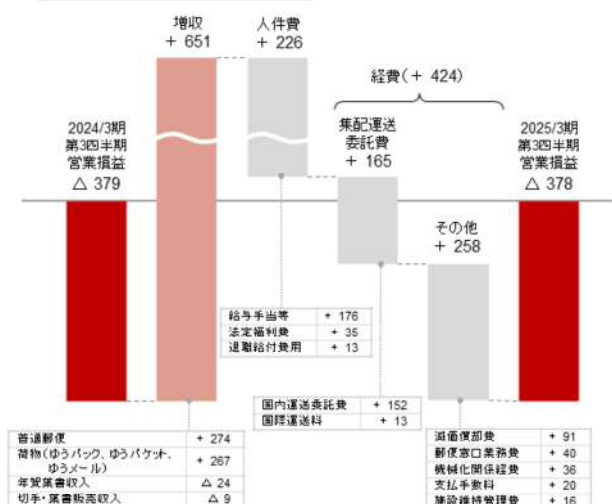
- ・取扱数量は、郵便が減少したものの、荷物が増加し、ほぼ横ばい
- ・営業収益は、料金改定による郵便収入の増加に加えて荷物収入の増加により、651億円増収
- ・営業損益は、増収となったものの、人件費及び経費が増加し、前年同期と同水準

営業損益の増減分析(前年同期比)

〔営業損益の推移〕

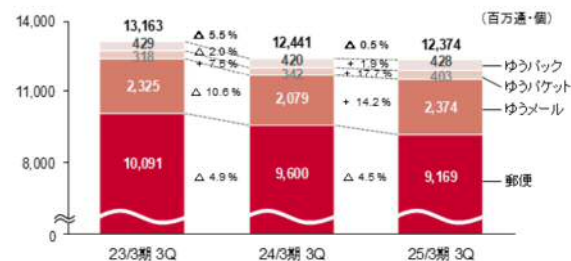
23/3期 3Q	24/3期 3Q	25/3期 3Q
455	△ 379	△ 378

(億円)



注：2025/3期から不動産事業セグメントを新設したことに伴い、2024/3期の数値を組替え。

取扱数量の推移



当第3四半期(累計)の経営成績

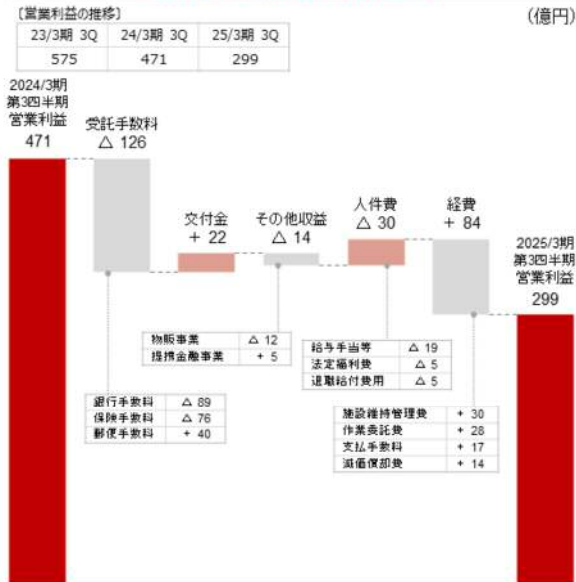
	2024/3期 第3四半期	2025/3期 第3四半期	増減
営業収益	14,825	15,477	+ 651
営業費用	15,205	15,856	+ 650
人件費	9,456	9,682	+ 226
経費	5,749	6,173	+ 424
営業損益	△ 379	△ 378	+ 1

Copyright © JAPAN POST GROUP. All Rights Reserved. 7

- ◆ 7ページは、郵便・物流事業セグメント(日本郵便(連結))について記載しています。
- ◆ 右上の棒グラフは、営業収益に直結する郵便物等の取扱数量の推移です。
- ◆ 総引受物数は123億74百万通・個で、前年同期比で0.5%の減少となりました。
- ◆ ゆうパック、ゆうパケット、ゆうメール、郵便の取扱数量の増減率は次の通りです。
 - ・ ゆうパック : 1.9%の増加
 - ・ ゆうパケット : 17.7%の増加
 - ・ ゆうメール : 14.2%の増加
 - ・ 郵便 : 4.5%の減少
- 左下の滝グラフは、営業損益の前年同期からの増減分析です。
- 左から2番目、営業収益は料金改定による郵便収入の増加に加えて荷物収入の増加等により、前年同期比で651億円の増収となりました。
- 営業費用は、引き続きコストコントロールの取組等を進めたものの、左から3番目の人件費が226億円、同じく4番目の集配運送委託費が165億円、それぞれ増加したことなどにより、全体で650億円増加となりました。
- ◆ これらの結果、営業損益は378億円の営業損失と前年同期と同水準となりました。

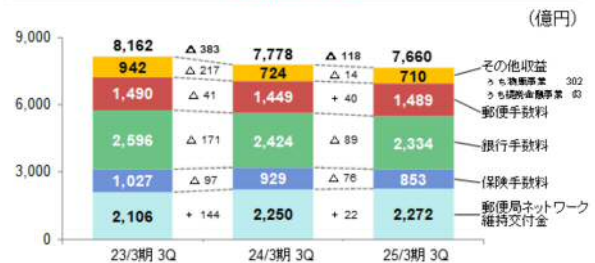
- ・営業収益は、銀行手数料、保険手数料の減少が継続し、118億円減収
- ・営業利益は、減収に加えて経費の増加等により、172億円減益

営業利益の増減分析(前年同期比)



注：2025/3期から不動産事業セグメントを新設したことに伴い、2024/3期の数値を組替え。

収益構造の推移



当第3四半期(累計)の経営成績

	2024/3期 第3四半期	2025/3期 第3四半期	増減
営業収益	7,778	7,660	$\Delta 118$
営業費用	7,307	7,361	+ 53
人件費	5,342	5,312	$\Delta 30$
経費	1,964	2,048	+ 84
営業利益	471	299	$\Delta 172$

Copyright © JAPAN POST GROUP. All Rights Reserved. 8

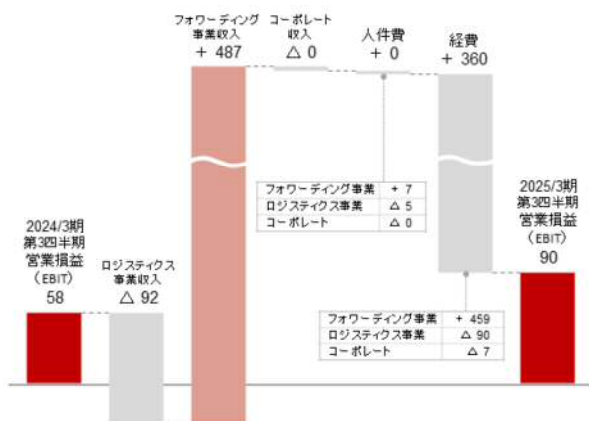
- ◆ 8ページは、郵便局窓口事業セグメント（日本郵便（連結））について記載しています。
- ◆ 右上は収益構造の推移を示した棒グラフです。
- ◆ 銀行手数料や保険手数料の減少が続き、営業収益は前年同期比で118億円の減収となりました。
- 左下の滝グラフは、営業利益の前年同期からの増減分析です。
- 左から2番目の受託手数料は、金融2社からの手数料の減少等により126億円の減収となりました。
- 営業費用は、右から3番目の人件費は減少したものの、右から2番目の経費が増加し、全体で53億円の増加となりました。
- ◆ これらの結果、営業利益は、前年同期比172億円減少し、299億円となりました。

- ・ 営業収益は、フォワーディング事業収入の増加等により、627億円増収
- ・ 営業損益 (EBIT) は、概ね前年同期と同水準

営業損益 (EBIT) の増減分析 (前年同期比)

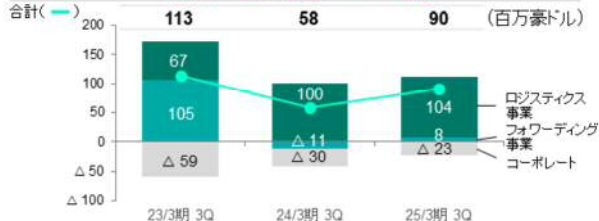
〔営業損益 (EBIT) の推移〕 (百万豪ドル)

23/3期 3Q	24/3期 3Q	25/3期 3Q
113	58	90



注1: 表の下段括弧内は期中平均レート (2025/3期第3四半期 100.74円/豪ドル、2024/3期第3四半期 94.23円/豪ドル) での円換算額。
 注2: 2025/3期のセグメント間の一部事業の組替えに併せて、2024/3期及び2023/3期の数値も組替え (全体合計額は一貫)。

事業別の営業損益 (EBIT) の推移



当第3四半期 (累計) の経営成績

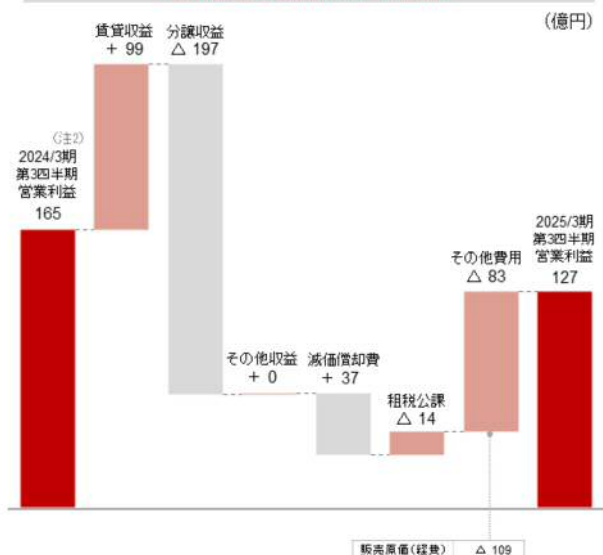
	2024/3期 第3四半期	2025/3期 第3四半期	増減
営業収益	3,537 (3,333)	3,931 (3,960)	+ 394 (+ 627)
営業費用	3,479 (3,278)	3,841 (3,869)	+ 361 (+ 590)
人件費	996 (939)	997 (1,005)	+ 0 (+ 65)
経費	2,482 (2,339)	2,843 (2,864)	+ 360 (+ 525)
営業損益 (EBIT)	58 (54)	90 (91)	+ 32 (+ 36)

Copyright © JAPAN POST GROUP. All Rights Reserved. 9

- ◆ 9ページは、国際物流事業セグメント（日本郵便（連結））について記載しています。
- ◆ 右上の棒グラフは、事業別の営業損益 (EBIT) の推移を示すものです。
- ◆ フォワーディング事業の営業損益 (EBIT) が黒字転換したこと等により、全体では前年同期比で32百万豪ドルの増加となりました。
- 左下の滝グラフは、営業損益 (EBIT) の前年同期からの増減分析です。
- 左から3番目のフォワーディング事業収入は、取扱量の増加等により487百万豪ドルの増収となりました。
- 営業費用は、右から2番目の経費でフォワーディング事業の経費が増加し、全体で361百万豪ドルの増加となりました。
- ◆ 右の表は国際物流事業の営業損益 (EBIT) の前年同期比較です。
- ◆ 豪ドルベースでは次の通りです。
 - ・ 営業収益 : 3,931百万豪ドル (394百万豪ドル増加)
 - ・ 営業費用 : 3,841百万豪ドル (361百万豪ドル増加)
 - ・ 営業損益 (EBIT) : 90百万豪ドル (32百万豪ドル増加)
- ◆ 為替の影響を含む円ベースでは次の通りです。
 - ・ 営業収益 : 3,960億円 (627億円増加)
 - ・ 営業費用 : 3,869億円 (590億円増加)
 - ・ 営業損益 (EBIT) : 91億円 (36億円増加)

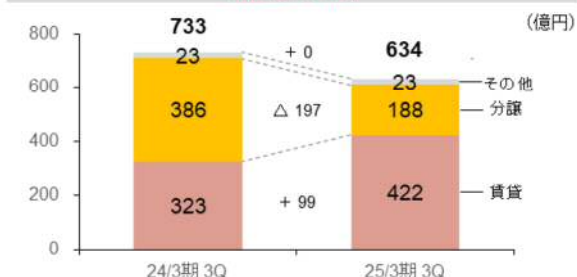
- ・ 営業収益は、分譲収益の減少により98億円減収
- ・ 営業費用は、販売原価の減少により60億円減少し、営業利益は38億円の減益

営業利益の増減分析(前年同期比)



注1: 当期(2025/3期)から事業セグメント区分を変更し、新たに不動産事業セグメント(日本郵便の不動産事業、日本郵政不動産、JPビルマネジメント及びJPプロパティーズで構成)の業績を開示。
注2: 前期(2024/3期)の値は、当期からの区分に対応するよう組替えを行い、比較情報を作成。

営業収益の推移



当第3四半期(累計)の経営成績

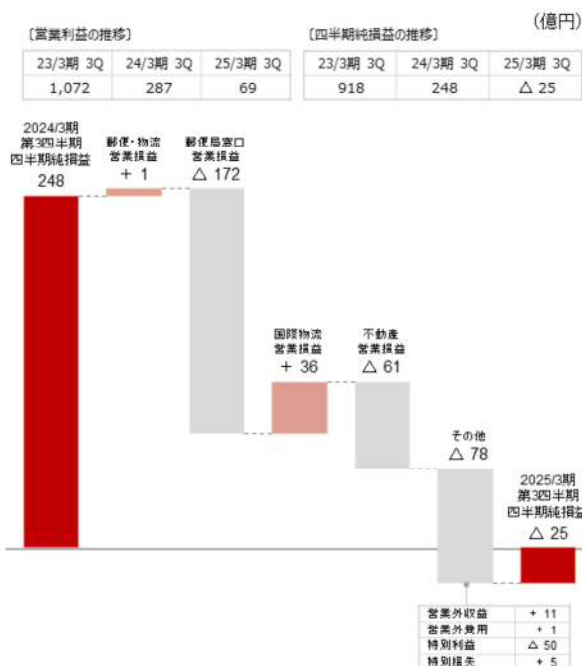
	(注2) 2024/3期 第3四半期	(注2) 2025/3期 第3四半期	増減
営業収益	733	634	△ 98
賃貸	323	422	+ 99
分譲	386	188	△ 197
営業費用	567	506	△ 60
営業利益(※)	165	127	△ 38

※ 経常利益は116億円(前年同期比△44億円)

Copyright © JAPAN POST GROUP. All Rights Reserved. 10

- ◆ 10ページは、不動産事業セグメントについて記載しています。
なお、6ページのコメントに記載のとおり、2025年3月期から同セグメントの開示を行っていますが、2024年3月期の値は、当期からの区分に対応するよう組替えを行い、比較情報を作成したものです。
- ◆ 右上は営業収益の推移を示した棒グラフです。
- ◆ 左の滝グラフは、営業利益の前年同期からの増減分析です。
- 賃貸収益は、前期竣工物件の稼働率向上等により99億円の増収となりました。
- 分譲収益は197億円の減収、営業収益は98億円の減収となりました。
- 営業費用は、分譲事業における販売原価(経費)の減少等により、60億円の減少となりました。
- ◆ これらの結果、営業利益は38億円減少し、127億円となりました。

四半期純損益の増減分析(前年同期比)



当第3四半期(累計)の経営成績

(億円)

	2024/3期 第3四半期	2025/3期 第3四半期	増減
営業収益	24,949	25,931	+ 981
営業費用	24,661	25,861	+ 1,200
人件費	15,745	16,006	+ 260
経費	8,915	9,855	+ 939
営業利益	287	69	△ 218
経常利益	238	29	△ 209
特別損益	76	20	△ 55
税引前四半期純利益	314	49	△ 264
四半期純損益	248	△ 25	△ 273

Copyright © JAPAN POST GROUP. All Rights Reserved. 11

- ◆ 11ページは、日本郵便（連結）について記載しています。
- 左の滝グラフは、四半期純損益の前年同期からの増減分析です。
- 左から3番目の郵便局窓口事業と左から5番目の不動産事業で減益となっており、その結果、四半期純損益も減益となっています。
- ◆ 右の表は、日本郵便全体の四半期純損益の前年同期比較です。
- ◆ 主な項目の増減は次の通りです。
 - ・ 営業収益 : 2兆5,931億円(981億円増加)
 - ・ 営業利益 : 69億円(218億円減少)
 - ・ 四半期純損益 : △25億円(273億円減少)

・ 四半期純利益は3,083億円、450億円の増益

当第3四半期(累計)の経営成績(連結)			
	2024/3期 第3四半期	2025/3期 第3四半期	増減
連結粗利益	5,609	7,539	+ 1,930
資金利益	5,422	6,762	+ 1,339
役務取引等利益	1,180	1,200	+ 19
その他業務利益	△ 993	△ 423	+ 570
うち外国為替売買損益	△ 810	△ 436	+ 373
うち国債等債券損益	△ 137	11	+ 149
経費(臨時処理分を除く)	7,004	6,906	△ 98
一般貸倒引当金繰入額	0	0	△ 0
連結業務純益	△ 1,395	633	+ 2,028
臨時損益	5,065	3,778	△ 1,286
経常利益	3,670	4,412	+ 741
四半期純利益	2,633	3,083	+ 450

資金利益の内訳(単体)			
	2024/3期 第3四半期	2025/3期 第3四半期	増減
資金利益	5,418	6,762	+ 1,344
資金運用収益	10,399	12,687	+ 2,287
資金調達費用	4,981	5,925	+ 943



Copyright © JAPAN POST GROUP. All Rights Reserved. 12

- ◆ 12ページは銀行業セグメントについて記載しています。
- ◆ 左の表がゆうちょ銀行(連結)の四半期純利益の前年同期比較です。
- ◆ 連結粗利益は、資金利益が1,339億円増加したことを主因に、前年同期比1,930億円増加の7,539億円となりました。
- ◆ 臨時損益は、プライベートエクイティファンド等からの収益が増加したものの、株式のリスク調整オペレーションに伴う売却益の減少により、前年同期比1,286億円減少の3,778億円となりました。
- ◆ これらの結果、経常利益は、前年同期比741億円増加の4,412億円、四半期純利益は、同450億円増加の3,083億円となりました。
- ◆ 連結粗利益の主な内訳として、ゆうちょ銀行(単体)の資金利益の内訳を右の表に記載しています。ゆうちょ銀行(単体)の資金利益は、外債投資信託からの収益増加や国債利息・日銀預け金利息の増加により、前年同期比1,344億円増加の6,762億円となりました。

・ 四半期純利益は844億円、192億円の増益

当第3四半期(累計)の経営成績(連結)			
	2024/3期 第3四半期	2025/3期 第3四半期	増減
経常収益	45,607	43,346	△ 2,261
経常費用	44,353	41,118	△ 3,234
経常利益	1,254	2,227	+ 973
特別損益	155	△ 301	△ 456
価格変動準備金戻入額 注	156	△ 299	△ 456
契約者配当準備金繰入額	481	730	+ 248
四半期純利益	651	844	+ 192
新契約年換算保険料 (個人保険)	659	1,490	+ 830
保有契約年換算保険料 (個人保険)	29,873	29,044	△ 828

注: 符号がプラスの場合は戻入を、マイナス(△)の場合は繰入を示す。

(参考) 経常利益の内訳(単体)			
	2024/3期 第3四半期	2025/3期 第3四半期	増減
基礎利益	1,697	1,625	△ 72
キャピタル損益	65	378	+ 312
臨時損益	△ 502	216	+ 718
経常利益	1,260	2,219	+ 958

契約の状況(個人保険)

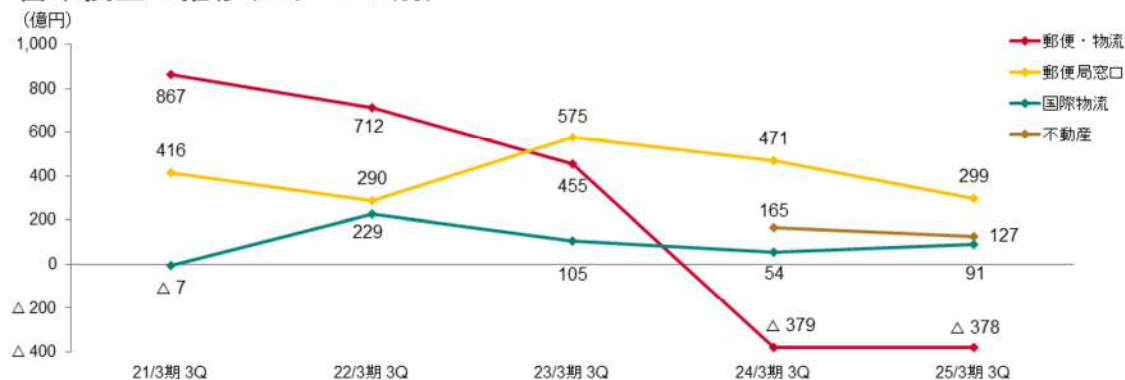


- ◆ 13ページは生命保険業セグメントについて記載しています。
- ◆ 左の表がかんぽ生命(連結)の前年同期比較、右下の表が契約の状況(個人保険)です。
- ◆ 主な項目の増減は次の通りです。
 - ・ 経常収益 : 4兆3,346億円(2,261億円減少)
 - ・ 経常利益 : 2,227億円(973億円増加)
 - ・ 四半期純利益 : 844億円(192億円増加)
- ◆ 経常利益は、基礎利益は減少しましたが、臨時損益の改善およびキャピタル損益の大幅な改善により、973億円の増益となりました。
- ◆ 四半期純利益は、キャピタル損益(投資信託の解約益を除く)および順ざやに含まれる為替に係るヘッジコストを、価格変動準備金で中立化するため、前年同期比192億円の増益となりました。
- ◆ 新契約年換算保険料は、増加となりました。
- ◆ 保有契約件数は、減少となりました。

➤ 2025年3月期 通期業績予想の進捗率(セグメント別)

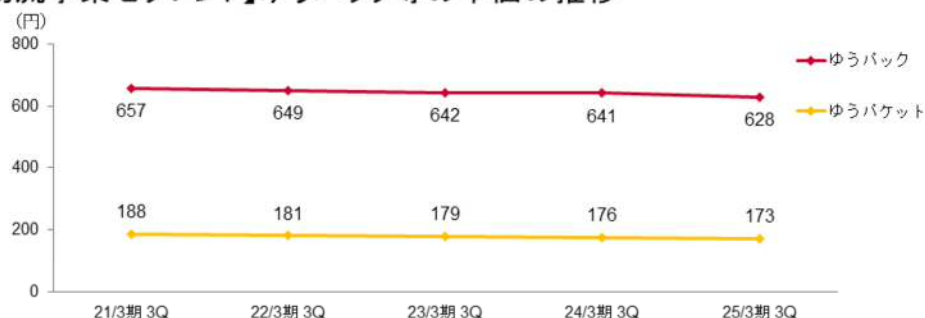
2024年5月公表	郵便・物流事業 セグメント	郵便局窓口事業 セグメント	国際物流事業 セグメント	不動産事業 セグメント
営業損益予想	10	△ 180	120	40
(3Q進捗率)	(－)	(－)	(76.1%)	(318.3%)

➤ 営業損益の推移(セグメント別)

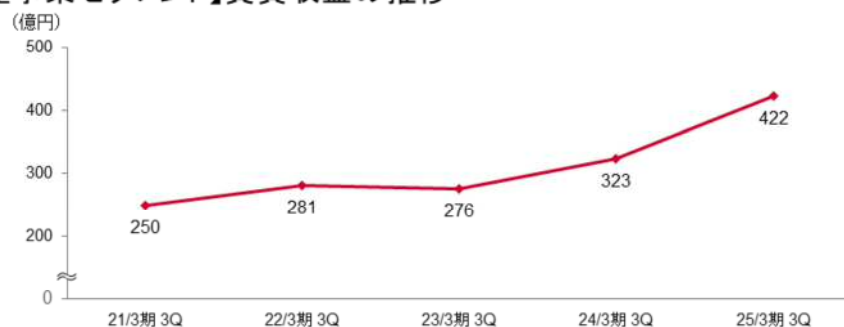


- ◆ 14～15ページはセグメント業績関連の参考情報を記載しています。
- ◆ 上の表が通期業績予想の3Q進捗率(セグメント別)です。国際物流事業セグメントが76.1%、不動産事業セグメントが318.3%となりました。(郵便・物流事業セグメントは営業損失、郵便局窓口事業セグメントは業績予想が営業損失のため記載なし)
- ◆ 下の表が営業損益の推移(セグメント別)です。郵便局窓口事業セグメント、不動産事業セグメントで減益、郵便・物流事業セグメントは前年同期と同水準、国際物流事業セグメントが増益となっています。

➤ 【郵便・物流事業セグメント】ゆうパック等の単価の推移

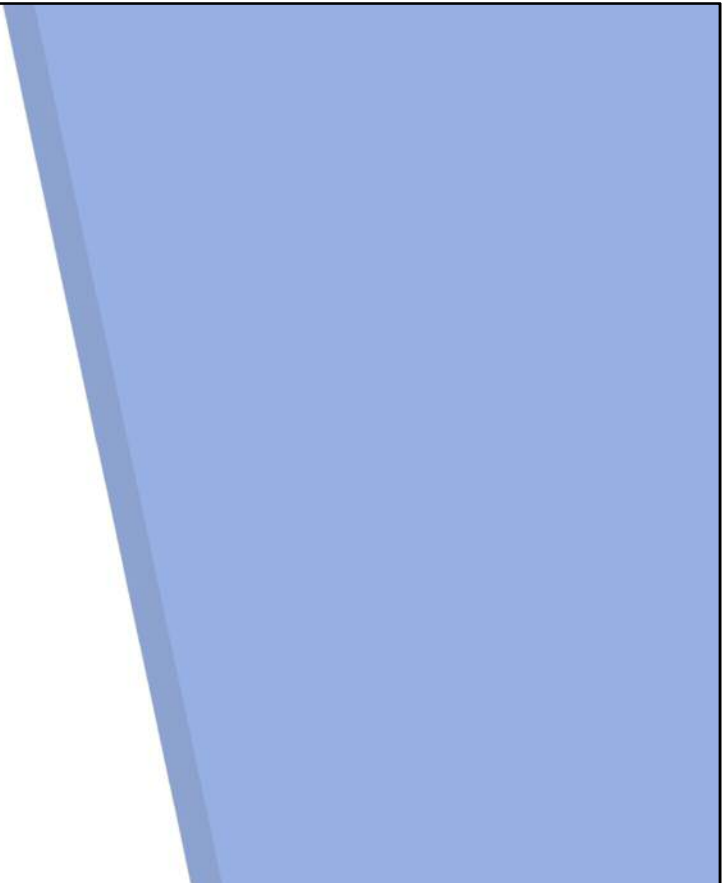


➤ 【不動産事業セグメント】賃貸収益の推移



Copyright © JAPAN POST GROUP. All Rights Reserved. 15

- ◆ 上の表が【郵便・物流セグメント】ゆうパック等の単価の推移です。「ゆうパック」は628円、「ゆうパケット」は173円となりました。
- ◆ 下の表が【不動産事業セグメント】賃貸収益の推移です。賃貸収益は每期積み上がってきています。

A large blue geometric shape, resembling a parallelogram or a tilted rectangle, occupies the right half of the page. It has a lighter blue shadow or gradient effect on its left side, creating a sense of depth.

3.

資料編

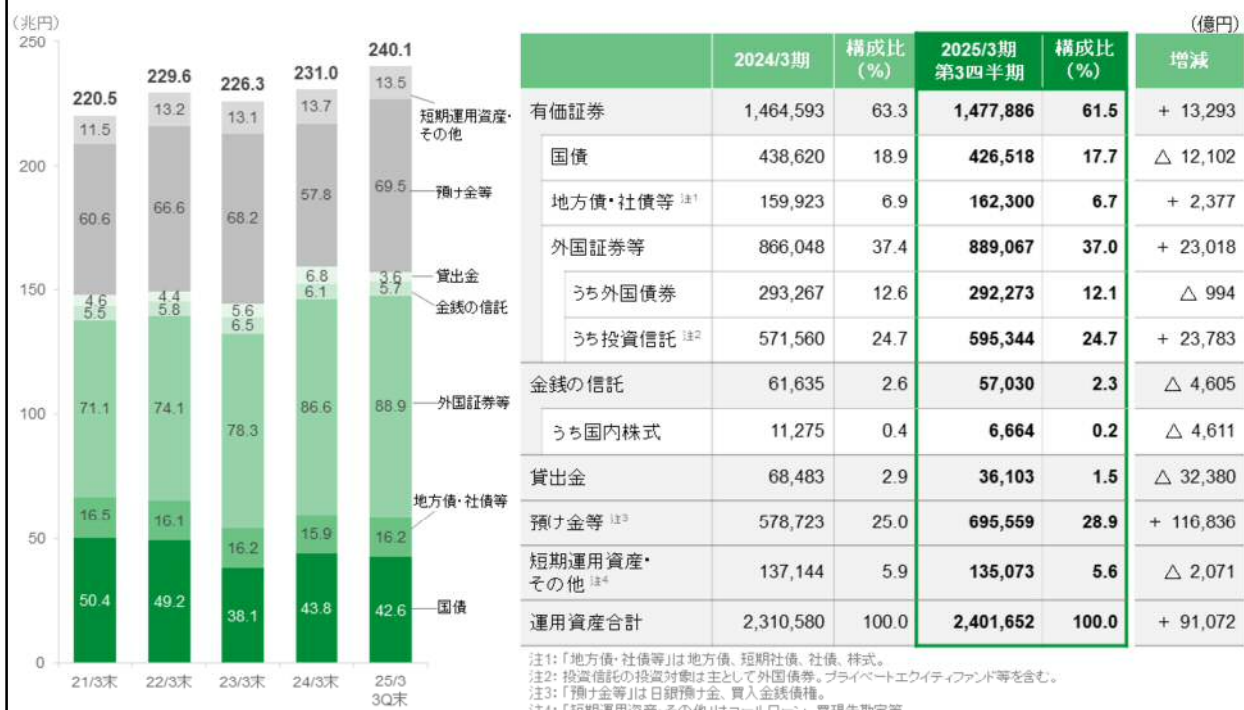
要約連結貸借対照表

(億円)

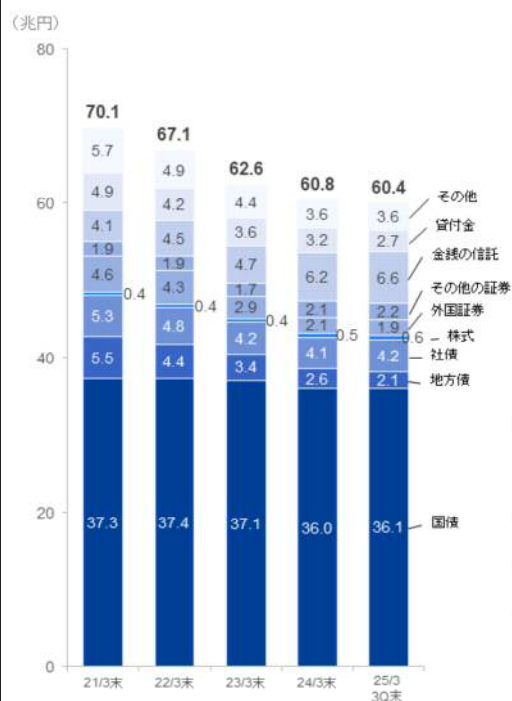
	2024/3期	2025/3期 第3四半期	増減		2024/3期	2025/3期 第3四半期	増減
現金預け金	595,074	713,691	+ 118,616	貯金	1,908,730	1,906,980	△ 1,750
コールローン	20,500	13,800	△ 6,700	売現先勘定	279,476	380,244	+ 100,768
買現先勘定	107,898	100,808	△ 7,089	保険契約準備金	519,883	511,232	△ 8,650
金銭の信託	124,350	123,556	△ 793	債券貸借取引受入担保金	23,737	22,701	△ 1,036
有価証券	1,947,440	1,961,707	+ 14,266	借入金	21,534	25,890	+ 4,356
貸出金	101,297	63,751	△ 37,545	退職給付に係る負債	20,542	21,292	+ 750
有形固定資産	32,335	32,303	△ 31	負債の部合計	2,829,506	2,924,703	+ 95,197
無形固定資産	2,985	3,080	+ 95				
繰延税金資産	7,049	8,777	+ 1,728	純資産の部合計	157,385	152,931	△ 4,453
資産の部合計	2,986,891	3,077,635	+ 90,744	負債及び純資産の部合計	2,986,891	3,077,635	+ 90,744

- ◆ 16ページは日本郵政グループ要約連結貸借対照表を記載しています。
- ◆ 資産の部合計が9.0兆円増加の307.7兆円、負債の部合計が9.5兆円増加の292.4兆円、純資産の部合計が0.4兆円減少の15.2兆円となりました。

ゆうちょ銀行（単体）資産運用の状況



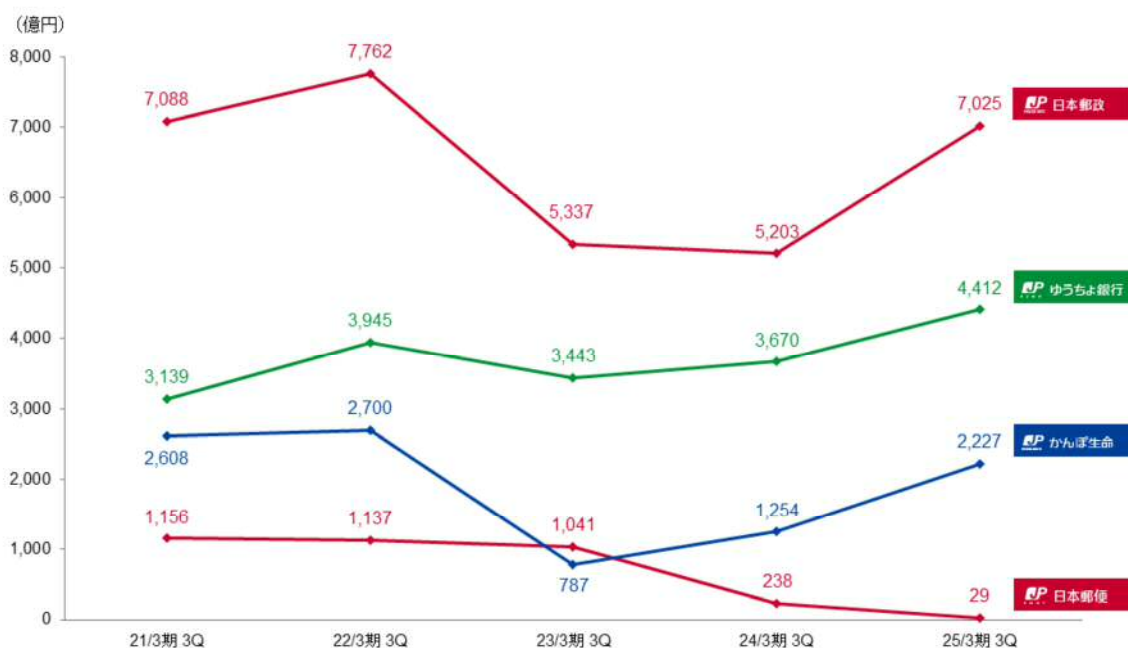
- ◆ 17ページは、ゆうちょ銀行（単体）の資産運用の状況です。
- ◆ 運用資産は総額で、9.1兆円増加の240.1兆円となりました。
- ◆ 国債は1.2兆円減少の42.6兆円となり、運用資産合計における構成比は17.7%となりました。
- ◆ 外国証券等は2.3兆円増加の88.9兆円となり、構成比は37.0%となりました。
- ◆ 預け金等は日銀預け金が大宗を占めており、足許では増加しております。



	2024/3期	構成比 (%)	2025/3期 第3四半期	構成比 (%)	(億円) 増減
有価証券	476,938	78.4	474,359	78.4	△ 2,578
国債	360,375	59.2	361,837	59.8	+ 1,461
地方債	26,345	4.3	21,924	3.6	△ 4,420
社債	41,198	6.8	42,238	7.0	+ 1,039
株式	5,577	0.9	6,231	1.0	+ 653
外国証券	21,688	3.6	19,965	3.3	△ 1,723
その他の証券	21,752	3.6	22,163	3.7	+ 410
金銭の信託	62,714	10.3	66,525	11.0	+ 3,811
うち国内株式	31,071	5.1	31,835	5.3	+ 764
貸付金	32,813	5.4	27,648	4.6	△ 5,164
その他	36,093	5.9	36,184	6.0	+ 90
総資産	608,558	100.0	604,718	100.0	△ 3,840

- ◆ 18ページは、かんぽ生命の資産運用の状況です。
- ◆ 運用資産は総額で、0.3兆円減少の60.4兆円となりました。
- ◆ 総資産のうち、約8割を占める有価証券は、0.2兆円減少の47.4兆円となりました。
- ◆ 有価証券の大部分は国債であり、0.1兆円増加の36.1兆円となっています。
- ◆ 上記の他、貸付金が0.5兆円、地方債が0.4兆円減少しています。

経常利益の推移



- ◆ 19ページは、主要3社及びグループ連結の経常利益の過去5期分の推移をグラフ化しています。
- ◆ 経常利益は、グループ連結、ゆうちょ銀行、かんぽ生命が増益、日本郵便が減益となっています。

四半期純損益の推移



- ◆ 20ページは、主要3社及びグループ連結の四半期純損益の過去5期分の推移をグラフ化しています。
- ◆ 四半期純損益は、グループ連結、ゆうちょ銀行、かんぽ生命が増益、日本郵便が減益となっています。

本資料に記載されている通期業績予想等将来に関する記述は、当社が現在把握している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその達成を約束するものではありません。実際の業績等は、国内外の金融政策の変更や景気変動、競争条件の変化、大規模災害等の発生、法規制の変更等様々な要因により大きく異なる可能性があります。